

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	博物館活動事業			会計	款	項	目	大	小
				01	10	05	08	01	07
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	図書・博物館				
施策	3-4	ながれやま市民文化の継承と醸成		主管課長	小栗 信一郎				

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	博物館の来館者	意図	流山の歴史、民俗、文化等について周知し、それらに対する理解を深めるとともに継承するため。
事業内容	資料の収集・保管、調査・研究、常設展の展示・公開、講座・講演会・子ども教室などの開催による教育普及など、各分野の事業を実施する。			
事業開始から現在までの状況変化	流山市立博物館は、市政施行10周年事業として昭和53年6月に流山市郷土資料館として開館。博物館法に基づき、収集保管・調査研究・展示公開・教育普及の各事業を実施。昭和59年4月に流山市立博物館に改称。その中で生涯学習社会の成熟、学校教育における総合学習の新設などに対応した。平成13年4月にリニューアルオープン。時系列で流山の歴史が理解できるように展示を展開し、また市民が展示に利用できる市民ギャラリーを新設した。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	観覧者数	23,793	24,715	24,345	人	→→	
②	講演会・講座開催数	44	60	46	回	→→		
③	受講者数	1,984	2,416	2,522	人	↗↗		
④	収蔵資料点数	28,669	28,725	28,803	点	→→		
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・平成30年度の観覧者数は前年度とほぼ同数であった。 ・各種講座や出前授業等を引き続き積極的に開催した。 ・博物館活動の基本となる収集保管業務を着実に継続した。収集保管業務の中でも、画像提供の依頼が増加している。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		11,420,972	15,445,185	14,735,158				
事業費(b)(円)		2,859,002	3,776,615	3,714,018				
うち一般財源		2,859,002	3,776,615	3,714,018				
職員給与と費(c)(円)		8,561,970	11,668,570	11,021,140				
人役・職員(人)		0.90	1.30	1.26				
人役・再任用(人)				0.02				
人役・臨職(人)		2.13	2.63	2.15				
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	博物館への来館・講座等への参加者数を増やす取り組みを実施する。	③取組における課題(Check)	館外活動を博物館来館に有効につなげる。
②H30に実施した取組(Do)	出前講座を積極的に実施した。企画展以外にも小展示を実施した。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	館外活動を博物館来館につなげる仕組み作りの検討を進める。